

甲状腺疾患における「感情のなさ」について

河合俊雄 (こころの未来研究センター教授)

■はじめに

甲状腺疾患は、情緒不安定や抑うつを呈する患者も多く、心理学的問題と関連深いことが指摘されている。なかでもバセドウ病は古くから「心身症」に挙げられ、その発症に心理的要因が関与している可能性が示唆されてきた (Alexander,F.,1950)。心身症に関連する概念としてアレキシサイミア (失感情症) (Sifneos,P.E.,1973) があるが、これまでの研究から、甲状腺疾患患者においても反省的な感情が生じてきにくいなどの特徴が指摘されている。本プロジェクトは、2種類の心理テストと半構造化面接から「感情のなさ」というのがどのような心理的特徴と関連するのかを検討することから、「負の感情」をもつことの意味を考察しようとするものである。昨年度の報告よりデータと分析を補って示したい。

■調査の対象者

甲状腺疾患3群に対して、心理的葛藤を訴えて来談する神経症患者を対照群とした (表1)。

■心理テストによる検討①

——NEO-FFI人格検査

NEO-FFI人格検査は、神経症傾向・外向性・開放性・協調性・誠実性の5因子からなる自己評定型の質問紙である。甲状腺疾患群 (GD,HD,NG) は5因子とも標準域に位置し、統計的な差異は見られなかった。神経症群は神経症傾向が高く、外向性・誠実性が低かった。

■心理テストによる検討②

——バウムテスト

バウムテストは「実のなる木を1本」描くことによる投影描画法である。甲状腺疾患群には、樹冠がなく先端が開いた樹や樹冠の閉じ切らない樹が多く、内空間と外空間の境界が不明瞭で

表1 調査対象者

	バセドウ病 (GD)	慢性甲状腺炎 (HD)	結節性甲状腺腫 (NG)	神経症 (NE)
対象者数 (M/F)	64 (12 / 52)	38 (3 / 35)	68 (11/57)	22 (6 / 16)
年齢 (SD)	36.9 (10.58)	48.6 (12.06)	51.0 (11.87)	38.8 (14.24)

あった。こうした自我境界の曖昧さは、神経症水準の患者にはあまり見られないもので、甲状腺疾患群の特徴と考えられた。これらは特に慢性甲状腺炎・結節性甲状腺腫群に顕著で、バセドウ病患者は3群のなかでもっとも神経症圏に近い形態を備えていた。

■インタビューによる検討

半構造化面接は初診面接に準ずるものとして実施され、〈症状に対する認識〉〈自分に対する認識〉〈他者との関係〉〈カウンセリングに対する関心〉という4領域計52項目からなる分析指標に基づいて、語りの特徴が検討された (表2)。

バセドウ病患者・慢性甲状腺炎患者は、特にネガティブな感情に意識が向きにくく、自と他、およびその関係を捉える視点に陰影を持ちにくかった。また結節性甲状腺腫患者は、感情に触れる言葉が少ないなど、ネガティブな

ものを含めて心理的な事象とはかなり距離があることが示された。

甲状腺患者の示した「負の感情」のもちにくさは、彼らの社会適応のよさを支える一因であるが、問題を自分のこととして捉え、内省することの難しさを示唆するものでもあるだろう。これは、自己評定型の質問紙では標準的な結果を示すにもかかわらず、バウムテストでは自我境界の曖昧さが示されたこととも重なる特徴と思われる。自発的な訴えは少ないかもしれないが、心理的に問題がないのではなく、表面に現れてきにくいという側面があるだろう。“負の感情をもちにくく、悩まない”人が心理的危機に出会ったとき、その内的なインパクトは心理学的なものになりやすく、その分、身体で問題を引き受け、体験しているのかもしれない。甲状腺疾患におけるこころと身体の関係については、より詳細に検討する必要があると思われ、今後の検討課題としたい。

表2 インタビュー評定項目の群間比較 (一部抜粋)

カテゴリー		GD (N=64)	HD (N=38)	NG (N=68)	NE (N=22)	Fischer
症状に対する認識	自発的な来院	39	18	33	18+	*
	周囲の指摘による来院	11	13	19	1-	*
	心理的要因と関連づける	11	4	8	8+	+
自分に対する認識	ポジティブな面を語る	20	20+	30	4-	*
	ネガティブな面を語る	26-	24	33	18+	**
	外的属性を挙げる	0	0	6+	0	*
	他者への否定的感情	11	5	9	11+	**
	自己否定感	1	1	3	5+	**
	不遇感	1	2	3	4+	*
他者との関係	感情に関して言及されない	34	20	42+	3-	**
	円滑な人間関係	29	28+	34	7	**
	人間関係の軋轢	11	9	9-	17+	**
	同伴者	25+	6-	21	5	+
	調査者への個人的関心	15+	6	6	1	+
Coに対する認識	調査と関係ない話をする	15	6-	30+	9	**
	Co.に対する積極的態度	12	6	12	10+	*
	Co.への興味がない	25	17	32	4-	+

+ p<0.10, * p<0.05, **p<0.01